

# 新型コロナウイルス対策の 処方箋はこれだ!!

長瀬

清  
会長



深澤

雅則  
副会長



藤原

秀俊  
副会長



佐古

和廣  
副会長



世界で猛威をふるう新型コロナウイルスは、日本でも全国各地で感染が拡大しており、北海道も例外ではない。見えない敵と闘う処方箋はないのか。北海道医師会の長瀬清会長と副会長の深澤雅則、藤原秀俊、佐古和廣の3氏が医療現場の現状と問題点を緊急討論、併せて地域医療の課題について語ってもらった。  
(4月3日現在)

## 全道で3000病床を確保

——新型コロナウイルスの問題で北海道の医療現場でもかなりの混乱があったと思いますが、具体的にどんな状況だったのでしょうか。

長瀬 北海道で新型コロナウイルスの感染者が爆発的に出て、鈴木直道知事が2月28日に「緊急事態宣言」を行いました。北海道医師会も3月1日に記者会

見を開き、日本医師会と北海道医師会、郡市医師会が一致協力してこの問題について対策を公表しました。

最大の懸案は、感染者が発生した時どう対処するかでした。具体的には、検査をきちんとできるようにするのはどうしたらよいか、感染患者

の入院ベッドをどう確保するかでした。これらを道の新型コロナウイルス感染症対策本部の医療体制班に提案し、医師会からも職員を派遣して情報を収集し対応に協力しました。

佐古 私が住んでいる名寄市では、名寄市立総合病院に感染症病床が4病床ありますが、感染者が爆発的に増えた時には一般病床で対応するため「1病棟をいつでも空けられるように入院制限した」と聞いています。道内のほかの公的病院でも同様の対応を行ったと思

——厚生労働省指定の感染症病床は道内で94病床ですが、道内の感染者はすでに190例を超え、さらに増加が予想されます。入院ベッドの確保の現状についてはどうだったのですか。

長瀬 感染症病床の94病床が満床になったら結核



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<http://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)